

2016

学生食堂の卓上衝立て

A Partition for School Canteen

AD17 滝島 拓也
指導教員 比留間 真

1. 研究目的

このテーマで研究をしようと思ったのはサレジオの学生食堂にて、1人で食事をしようとした時、何故か使いづらいと感じたことがあった。その時の経験から使いづらさの原因は何なのだろう、他にも同じ様に感じている人もいるのだろうか、という疑問が生じたことが本研究に取り組むきっかけである。

2. 調査と分析

使いづらい理由が何と無く使いづらいと、自分では感じるだけではっきりしないので、色々な人に話を聴くと「なんとなく。」「雰囲気が使いづらい。」というような答えが返ってき、自分で感じることでほとんど変わらないので学食を観察し考察してみた。

サレジオの学食を一見するとテーブルが規則的に並べられていて効率よく人を多く収容するには、適した配置であると考えられるが、調査の結果以下の問題点が見つかった。

- ① 4人がけテーブルに1人で座るには大き過ぎるということ。
- ② 相席の場合、見ず知らずの人と対面で座るには多少なりとも気まずさが出る。中にはそういった交流が苦手な人もいられる。そういった人には特に使いづらいと言える。
- ③ 縦横一直線に並べられたテーブル配置であること。たとえ同じテーブルの正面に人が座らなかつたとしても、その他の席から顔が向かい合わせになった場合、視線を感じてしまい、落ち着いてテーブルを仕様してられなくなる。

3. コンセプトの立案

「取り外し可能な卓上パーテーション」

1. 現状の設備を活用する。
2. 1人分のパーソナルな空間を確保し、圧迫感を与えない。
3. 他人の視線を感じさせない。

4. デザイン展開

1. 既存のテーブルに設置出来る。
新しいテーブルを導入しなくても、既存のものに対応して設置出来る。
2. 正面に座る人とのやわらかな遮断。
4人がけ席の真ん中に仕切りを置くことで1人分

のパーソナルスペースを確保する。

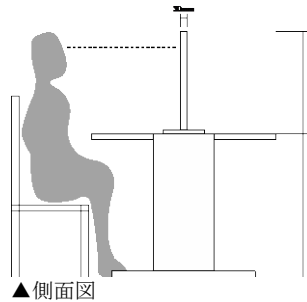
仕切りを棧にし、隙き間を密にすることで相席になっても正面の人との視線や圧迫感をやわらかに遮断することが出来る。

3. 斜め方向からの人との遮断。

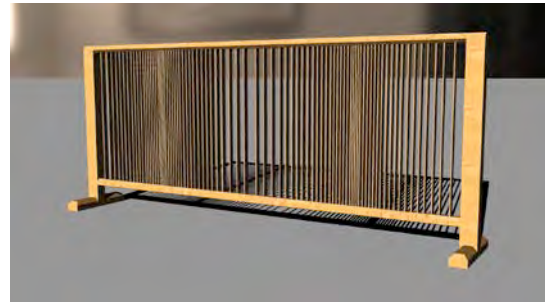
棧の隙き間を広くすることで斜め方向に座った人、及び他の列や周囲の人から感じ取れてしまう視線も遮断出来る。

棧の間隔は斜め方向からに対しては広げても角度が生まれ見えなくなるので、横に行くに連れてグラデーションしているように広げている。そうすることで全体の圧迫感も同時に軽減している。

5. 完成図



▲側面図



▲完成図

6. 結論

仕切りの設置はテーブルに置くだけで、特に設置する為の器具も必要なく簡単に出来る。

フレームの中身を棧にすることで遠目から見ても重々しく見えない上に、空席かどうか一目で判断することが出来る。

棧で目隠しすることに問題は無いが、隙き間の間隔をもっと正確な比で細かく割り振ればもっと見栄えが柔らかくなり綺麗に見えると考えられる。

文 献

- [1] 神戸大学ニュースネット委員会<携帯版>、
<http://blog.goo.ne.jp/newsnet/e/7374da4b1b4d353cca4387b09e1f4ce9>、2012/9/20